

活動報告書

Ready
2009

描き初め



LANDSCAPE DESIGN

GSDy 描き初め 2009

即日設計会+講評会

日時

2009年1月17日(土)
9:00 - 18:00 即日設計会
18:00 -21:00 講評会

会場

国立オリンピックセンター センター棟5階513号室

講師

藤本 壮介(建築家)

はじめに

本設計会は3人1組のグループワークを前提とする。決められたグループのメンバーと協力し、お互いの能力を活かしながら設計を行う。

課題

決められた敷地の中で、「植物」と以下の5つの語から2つの語を取り上げ、合計3つをキーワードとして、空間を提案せよ。

それら3つの関係性からのデザイン、直接部材としての使用等は自由とする。

キーワード

参拝 光 交差 傾斜 間

設計条件

- ・ 建築的提案がある場合は、機能、配置、ボリューム及び形態、平面計画について提案すること。
- ・ 既存の建造物の保存・改築・撤去等は自由に判断して良い。
ただし、機能改変・改築等の場合は具体的に提案を行うこと。

敷地

小田急「参宮橋」駅周辺(別紙資料参照)

成果物

- ・ 提案タイトル、コンセプト、配置図、平面図、断面図、パース、ドローイング、模型等設計したものを各班が効果的に表現できるものを自由に選び、表現する。
- ・ パソコンの使用は禁止とする。
- ・ 図面はA1サイズ5枚まで、手書きのものとし、模型の制作は自由とする。

プレゼンテーションの方法

各班 プレゼンテーション4分、質疑応答5分とする。プレゼンテーションでは敷地周辺の写真を紹介する。

(各班の交代時間は1分)

プレゼンテーションの順番は、直前にくじびきによって決める。
以下の項目を盛り込んで、設計意図と内容を過不足なく表現する。

- ・提案物、空間（何をつくるのか？）
- ・場所説明用の写真（5枚以内）
- ・その他の表現方法は自由

審査

1位～3位と、オーディエンス賞を決める。

- ・藤本賞1位～3位：講師が決定する
- ・オーディエンス賞：観客が最も多く支持（投票）した作品に与える

タイムスケジュール

即日設計会

- 8:50 集合（国立オリンピックセンター入口）
- 9:00 現地到着（国立オリンピックセンター センター棟 513号室）
- 9:15 全員集合、あいさつ
- 9:30 開会宣言、諸々説明
- 10:00 解散（敷地見学等、昼食は各自で）
- 13:00 会場に集合、作業開始
- 17:00 配置場所写真提出
- 17:30 作業完全終了、作品提出、片付け

講評会

- 18:00 他チームの作品鑑賞
- 18:20 挨拶、課題説明、講師より一言、投票用紙配布
- 18:30 プレゼンテーション
各班 プレゼンテーション 4分 + 質疑応答 5分
交代時間 1分
- 19:50 投票用紙回収
各自、自分の班以外で気に入った班を **1つ選ん**で投票する。
- 20:00 結果発表（藤本賞 1、2、3位）
- 20:20 オーディエンス賞発表
- 20:30 賞品授与
- 20:40 講師による総評
- 21:00 終了、懇親会会場へ移動
- 21:10 懇親会開始
- 22:45 懇親会終了
- 23:00 解散

配布資料

- ・本冊子
- ・敷地地図（縮尺 1/1000）

こちらで用意したもの

（各班に以下の物を用意しております）

道具

- ・カッターマット A1 サイズ…………… 1 枚
- ・カッター替え刃 ……………
- ・定規（ 1 m と 60cm ） …………… 1 本
- ・スチのり 100ml …………… 1 本
- ・ドラフティングテープ …………… 1 個
- ・スプレーのり（ 55 と 77 ） …………… 各 2 本を共有
- ・何でも紙（ A3 ） …………… 自由

図面材料（模型にも使用可）

- ・ケント紙 …………… 各 5 枚
- ・トレーシングペーパーA3 サイズ…………… 各約 20 枚

模型材料

- ・黄ボール 1 mm …………… 各 1 枚
- ・ダンボール 2 mm、 5 mm A1 サイズ …… 各 2 枚
- ・カスミソウ …………… 1 束（ 2 種類 ）
- ・黒ケント紙 A2 …………… 1 枚
- ・ペットシート A2…………… 1 枚
- ・バルサ材 1 mm、 2 mm …………… 各 2 枚

名簿+グループ分け

班	名前	所属	学年
A	高柳 誠也	東京大学 工学部 建築学科	B3
	岡田 裕司	早稲田大学 社会環境工学科	B3
	玄田 悠大	丹青社 事業企画部	社
B	木名瀬 遼	慶應義塾大学 政策メディア研究科	M1
	志鎌 隆	北見工業大学 工学部 土木開発工学科 都市・交通計画研究室	B4
	石川 真衣	東京農業大学 地域環境科学部 造園科学科	B3
C	鈴木 岳彦	東京大学 工学部 建築学科	B3
	飯沼 伸二郎	早稲田大学 社会環境工学科	B3
	野呂 有佳子	玉野総合コンサルタント株式会社 まちづくり推進部 都市計画課	社
D	伊藤 雄太	東京大学 工学部 建築学科	B3
	川田 武尊	早稲田大学 社会環境工学科	B3
	佐々木 哲也	中央コンサルタンツ 名古屋支店 都市整備部	社
E	平林 まみ	日本女子大学 家政学部 住居学科	B3
	山田 裕貴	東京大学大学院 工学系研究科 社会基盤学専攻 景観研究室	D1
	小林 徹平	早稲田大学 理工学部 社会環境工学科	B3
F	川上 真誠	関西大学 環境都市工学部 建築学科	B4
	荒川 佳大	東京工業大学 社会工学科	B3
	阿部 元気	明治大学 早稲田大学芸術学校	S1
G	豊嶋 純一	東北大学大学院 工学研究科 都市建築学専攻	M1
	加藤 俊介	東京工業大学 工学部 社会工学科	B4
	坂井 禎介	東京大学 工学部 建築学科	B3
H	上野 達郎	東北大学 工学部 建築学科	B3
	大橋 良乃介	東京大学大学院 工学系研究科 社会基盤学専攻	M1
	手島 史恵	名古屋工業大学大学院	M1

参加者アンケート

1. どういうきっかけで今回の描き初めを知ったか
2. どういう動機で参加したのか、また参加してみたの感想
3. もっとこうの方が良い等の要望

大橋 良乃介

1. GSDWのメーリングリストで

2.

動機

GSDW2007に参加して以来、短期間のグループでのワークショップに参加せずに基本的に個人で作品を作っていた。そんな設計に少し飽きが出て、久々に他人と本気で議論したいと思い参加した。

感想

単純にすごく楽しかった。誰かと議論しながらものを作るのは楽しかった。同時に即日設計は難しいとも思った。短時間の課題は普段から色々考えていないと深くないと実感した。軽い案を出してしまってすみません。自分の案についてももっときちんと考えを深めたかった、深めなければならなかったというのが正直な思い。

3. パソコン使用禁止はすごくいいアイデアだったと思う。手段が限られると無駄なことを考える必要がなく、逆に集中できてよかった。

反対に課題設定はもう少し改善の余地が残っている気がする。今回はキーワードと敷地と両方考えなければならぬのがきつかった。結果的にはキーワードも敷地もうまく解けた班はなく、どの班もどちらかに特化して考えていたと思う。例えば敷地を限定してしまうとか、即日設計ならそれくらいやってみてもいい気がする。

一日しかないのだから案を深くしようとするならそれくらい条件を狭めないで現実的でないとと思う。今回の表現でパソコンが禁止されたように。

志鎌 隆

1. 昨年、GSDyに入会させて頂いたため、GSDyの方々からのメールにより描き初めのことを知りました。

2.

動機

もっと自主的に参加していくことで、何か新しいものを得たい、景観に関する行動を起こしたいと考え、参加を希望いたしました。

感想

まず、GSDyにはこんなにもエネルギーあふれる方々がいらっしゃるのかというのが印象に残っていて、正直圧倒されっぱなしでした。

即日設計に最初こそ戸惑いや、設計できるかどうかという不安もありましたが、自分とは異なる分野の方々と協力し、方向性を話し合っていく中で、だんだんと楽しくなってきました。同じ班の木名瀬さんと石川さんには、かなり助けていただいたり、迷惑をかけてしまったけれども、お互いの意見を交し合い、考え方が異なる中で1つの作品に作っていくことが大変でもあり、とても刺激的で楽しくもある、そんなふうな思えたことに、とても感謝しています。

また、講評会を通して思ったこと、それは1つ1つの作品の個性が強いということでした。作品は8つでしたが、その発想や可能性は参加した方の数だけある、と思うととてもワクワクします。

自分の足りない部分や今後地方から何ができるのか、またGSDyの方々のために何をすべきか、もっと考えていかなければと感じた一日でした。

最後にですが、実際に手を動かすこと、アウトプットすることっていいですね。

3. ありません。もっとみんなの作品を見ておけば良かったです。

川上 真誠

1. GS会員なのでメールでしりました。

2.

動機

活動の幅を広げたかった事と、講師の藤本さんが魅力的だったので。

感想

とても楽しかったし、充実した一日になったと思います。

3. 特にありません。

高柳 誠也

1. 昨年も参加させていただき、またコースにも入会しているため、メーリスなどによる告知で知った。

2.

動機

昨年も即日設計をやった経験があるため、この1年で自分のスキルがどのくらいあがったのかの腕試しとともに、めったに経験できない提案作りができるだろうとの思いから参加した。

感想

今年はキーワードが設定された上で、規模などについては問われなかった課題であったため（昨年は展示物を見せる空間ということはかなり小規模だとわかっていたような）どの程度手を伸ばすべきかというところからはじめのとっかかりとして大変難しかった。しかし、敷地設定などは大変おもしろく、それが故に大変に苦労した。

即日設計特有の間に合わなくて、案が収斂しなくてつらいという経験をしましたが、今回は昨年よりもおもしろい作品が多かったと思う（これも昨年と敷地設定が大きく違うのが影響するのだと思う）。講評会も藤本さんの切り口がおもしろく大変に楽しめた。これは講師によると思うが、プレゼンテーションの後、学生側からも2人ずつくらいは質問や感想などをとってよかったのではないかなと思う。

僕らのグループは本当に苦しんだが、最後の最後でどうにか完成させてなんとかプレゼンできたという絶望からなんとか生き延びたという達成感がありました。さまざまな方と出会って話すことができたのもこうしたイベントでの大きな収穫なのではないかなと感じた。

パソコンなしというのもよかったと思う。パースやドローイングの重要性を再確認した機会にもなった。

3. 連絡がもう少しはやければよかったかもしれないです。グループワークです、とか、模型材料で用意してもらえるものは早めに行っていると即日設計の準備（精神的なものも含む）ができて臨めたのではないかなと思う。

上野 達郎

1. 大学の掲示

2.

動機

講師が藤本壮介だったから。

感想

他大や分野の違う人の意見や考え方に触れたり、プレゼンテーションを聞いたりしたことが、大変勉強になりました。

3. 特になし

加藤 俊介

1. GSDyのmlなど

2.

動機

- ・ワークショップの経験を増やしたかった
- ・知り合いが増えると思った

感想

- ・藤本さんのアドバイスが分かりやすく衝撃的でした。即日ということ学生ということをすごく理解してくれていたと思いました。
- ・敷地と作業場所が近くてよかったです。
- ・敷地設定、課題設定が絶妙でした
- ・手書きというのはいいですね

3. 参加人数はこれくらいがちょうどよかったのかなと思います。30人もしいたら多かったのかも。

佐々木 哲也

1. GSDyのメーリングリストを見て。

2.

動機

手を動かそう、そう宣言した名古屋飲み。すべからく実践すべし、ということで今回の描き初めに出向いた。

感想

結果からいえば完敗。学生の頭のやわらかさに圧倒された。夢を夢のまま描ける、やわらかい頭と手が、エッジのきいた提案を生むんだなあとしみじみ思った。

ところで、この描き初めの翌日に小生は25歳になった。やわらかい頭を取り戻すのはもう無理な歳かな。まあ社会人になったんだし、それほど悲観するものじゃないのかなとも思う。ただ、みんなが共感するような絵を描けるようになりたい。これだけは年齢と関係ないはずだから。スキルとしてしっかりと身につけようと思った。

3.

- ・GSDWのように1回きりの参加ではなく、描き初めは毎年参加できるイベントだったらいいと思う。来年以降の要項はこのあたりを強調してみてもどうでしょう。
- ・社会人をもっと取り込めたらいいと思う。学生はもちろん、頭のカタくなった？社会人にとって、とても意味の大きい機会だと思うから。

豊嶋 純一

1.GSDyメーリングリスト

2.

動機

設計をしたい時期だったのと、藤本壮介さんが非常に魅力的だった。

感想

最初に藤本さんが来なかったのも逆に力まずに出来たような気がするが、プレゼンでまいってしまった。短い時間だったけれど、チームメンバー・他チームの人々とお互いの価値観をぶつけ合えることが出来た。

3.もっと宣伝に力を入れた方がいいと思いました。ポスターはとてもよかったのですが、ウェブ上にはほとんど告知が無かったのでもう身内感が否めないと思います。

手島 史恵

1. GSDy の活動の中で。

2.

動機

他分野の人と、実際に手を動かしてものづくりを考える貴重な機会であるのと、ちょうど就職活動で即日設計の練習をしていたため。

感想

描き初め、お疲れ様でした。

ひっくり返ると、ものすごく薄くもあり、濃い一日でした。自分なりに考えきること、表現しきることでもできなかった、すごく薄い一日。そして、いろんな人と出会い、ものづくりを考え、プレゼンをし合った濃い一日。

なにはともあれ、とても楽しくできたのと同時に、即日設計の難しさ、ものづくりの難しさ、グループワークの難しさ、そしてこれから自分に必要なことを痛感させられた一日だったと思います。

そして、恵まれたメンバー、こういった機会をつくってくれたGSのメンバーに感謝します。

この経験は、必ず活かされることと思います。
この1日があったから、次につながられたんだ！と思えるように。

3.

- ・課題の意図がよく掴めなかったです。
とにかくものをつくる、というのも大切ですが、やはり議論の場でもありますので。
- ・ちょっとキーワードを決める前提みたいなものがあると、よかったです。
- ・贅沢かもしれませんが、1dayという短い時間の中で、もう少し活発な議論が出来たらよかったですなと思いました。

野呂 有佳子

1. 中部圏で開催されたGS懇親会に参加した際に、GS紹介のプレゼンテーションで描き初めの告知があったので。

2.

動機

社会人1年目を過ごしていて、なにか手を動かしてものを造りたいという欲求と何かやりたいという完全に勢いだけで名古屋から飛び込みました。

感想

結果として、予想通り自分の力の足りなさを一番実感した形になったけど、その分これからへの視野を広げられたと思います。チーム内で話し合いをしているときや、他のチームの発表を聞いていて、自分の考え方がとても保守的になってしまっていることにも気がつきました。それを今後どう打破していくか。課題は山積みです。

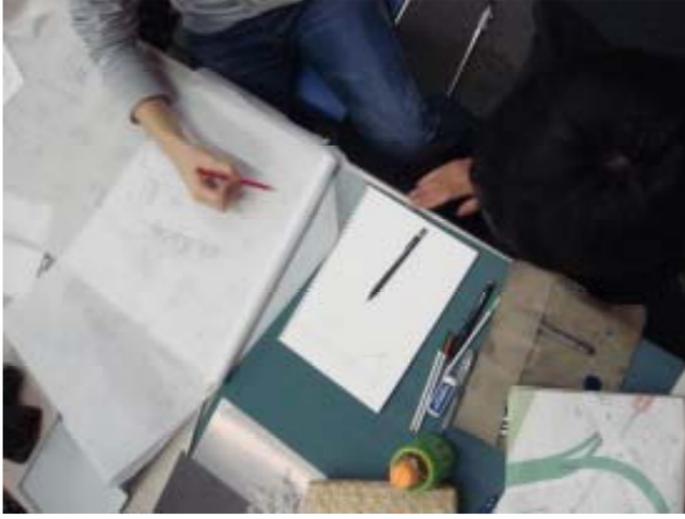
3. 対象地周辺の土地勘がなかったので、場所の持つ情報をもう少し与えられたらよかったです。

当日写真













運営スタッフ

大藪 善久

吉田 正哉

福角 朋香

当日スタッフ

棚橋玄

中野秀樹

大谷友香

2009年2月1日